



伝統を受け継ぐ式



2月26日(木)に伝統を受け継ぐ式が行われました。この儀式は、卒業する3年生に対して在校生から感謝の言葉を、3年生から在校生へ海星の伝統として引き継ぐ思いを言葉で伝えます。第15期生徒会長の山田彩紗さんから、第16期生徒会長の西塔このみさんへ校旗とともに想いが伝承されました。



FUKUOKA KAISEI GIRLS' HIGH SCHOOL 3月号

第60回卒業式 式辞 「希望の巡礼者」(抜粋)

フランシスコの庭の木蓮の蕾が膨らみ、小鳥たちのさえずりが心地よく聞こえます。老司の高楼にある、ここ福岡海星女子学院のキャンパスに春がやってまいりました。このよき日に卒業生の巣立ちを迎えることができましたことを神のみ恵みに感謝いたします。皆さんは、このキャンパスでどのような出会いがありましたか。卒業にあたり、「希望」についてお話ししましょう。

2025年、カトリック教会では、25年に一度、神様から特別なお恵みを賜る年、「希望の聖年」でした。10月、私たちは、「聖フランシスコの集い」で、これについて学びました。そして、聖年のテーマであった「希望の巡礼者」として、私たちにできることは何かと考え、皆さん一人おひとりの「祈り」が、奉納されました。聖年のロゴマーク(左上)をご覧ください。そこには、地球の四方から集まってきた全人類を象徴して、4人の「希望の巡礼者」が描かれ、彼らは抱き合っています。そして、先頭の人物は十字架をつかんでいます。十字架の形をした錨のマークが、しっかりと荒波の中に降ろされています。人物の下に押し寄せる波は、人生の旅がいつも穏やかな歩みであるとは限らないことを示しています。ご承知の通り、錨は希望の比喩としてよく用いられます。事実、船乗りの符牒では、嵐の際に船を安定させるため、緊急発動するポートによって投錨される予備の錨のことを「希望の錨」といいます。

では「希望」とは何でしょうか。わたしたちは希望を「良いものへの願望と期待」として、心の中に宿しています。ところが、人生には予測できないことが起こります。わたしたちは、昨年10月、終戦80年を迎えて、「平和語り部」の方から、お話をお聞きました。絶望と、孤独、恐怖の中で、時を過ごした人々の苦悩に思いを馳せました。どうやって、この中で希望を抱くことができたのでしょうか。さらに、12月、創立記念宗教講演会では、「阪神・淡路大震災」から30年を迎えて、米津勝之(かつし)さんに、お話いただきました。自分だけが生き残ったことに罪悪感を覚えながら、目の前で大切なお子さんを亡くされた米津さん、生きていくことがさぞ辛かったことでしょうか。あのとき、希望はどこにあったのでしょうか。がれきの中から見つかった、漢之(くにゆき)くんのランドセル、震災後に生まれた弟の凜(りん)くんが、背負うことを選びました。「兄ちゃんのランドセル僕がもらうよ。だって僕らは兄弟だから」。皆さんが心を込めて歌った「兄ちゃんのランドセル」の歌詞が、心に響きます。

人生は、喜びと苦しみとが織りなすものであるということを私たちは忘れてはなりません。私たちによいことばかりが起りますようにと願う、計画や見通しほど、あてにならないものはありません。「希望」は、「何が起こっても動じない、揺るぎない信仰に根ざすものでなければ、苦しみの前で潰れてしまう」と、第266代 教皇フランシスコは語っておられます。それだから、苦難の中を通るときこそ、カトリック校を、卒業する皆さんに覚えておいてほしいことがあります。それは、あなた方の「人生の主」は、あなた自身ではないということです。皆さんが3年間かけて学んだ「天におられる私たちの父」であるということです。使徒パウロは「希望は決してわたしたちを欺くことはありません。」と語っています。神様があなたがお一人おひとりのために立てられたご計画を信頼し、そこに「希望」を抱くものとなってください。

先日の「静修会」で、みなさんにご紹介した、2025年 聖年公式聖歌「希望の巡礼者」をもう一度振り返ってみましょう。希望の光 神よあなたに歌います。尽きぬいのちの泉 あなたを信じます。神のことばはともしび すべてのひとを照らす 散らされた人々は、み子の下へと集められる 希望の光 神よあなたに歌います 尽きぬいのちの泉 あなたを信じます 神はすべてを見守り 希望の朝をつける 天地はあなたにされいのちの霊に満ち溢れる 希望の光 神よあなたに歌います 尽きぬいのちの泉 あなたを信じます 目を上げ、ともに歩もう 神は再び来られる 人となられたみ子は 喜びと希望への道

イエス・キリストは、決して過去の方ではなく、今も生きて、私たちの中で働いておられます。私たちは、神様に愛されて、この時を、この場で生かされています。そして、学院の礎である「愛を持って真理に向かう」というスクールモットーの中に、あなたが「希望」に生きる、手段と方向がはっきりと示されています。卒業生の皆さん、たとえ、この先、どんなに険しい道が続いても、大丈夫です。希望の光 神があなたと共にあります。そして、このロゴマークで、4人の人物が象徴しているように、世界中の隣人の手を携え、「友愛」と「連帯」をもって、押し寄せる波を越えながら、進んでまいりましょう。そして、「希望」が、あなた方を通して、それを望む人たちに浸透していきますように。皆様の上に、神様の豊かな恵みがありますようにと祈り、私の式辞といたします。

令和8年3月2日 福岡海星女子学院高等学校 校長 古賀 誠子

静修会

この3年間、よりよく生きていく上で大切なことを学んできた3年生。卒業を前に、海星での日々を振り返る中で、多くの人々の支えによって今の自分があることに感謝しました。またこれから海星を巣立ち、一人ひとりが新しい生活を送る中でも、いつも希望を持ち、そして周りの人々にも希望をもたらすことのできる存在となれるよう願いました。

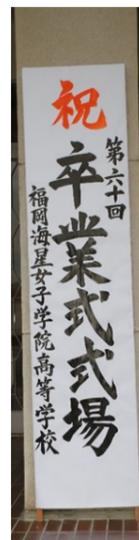
今までいただいた多くの恵み、大きな力、勇気に感謝する静修会となりました。

3年間の自分と向き合い、シスターや先生方のお話を通して自分の人生について考える機会となりました。自分の弱さを認め、自分を愛してくれた人たちに愛で返せるようになりたいです。海星で学ぶことができ、本当に良かったです。」(ある生徒の感想より)



卒業式

3月2日(月)に卒業式が挙行されました。今回は、記念すべき第60回の卒業式でした。厳かな雰囲気の中にも温かさが溢れる海星ならではの卒業式でした。卒業生総代竜口真央美さんの答辞の中に、海星の宗教教育を通して学んだことへの気付き、先生方への感謝、そして、伝統ある海星の第60回生としての誇りがあふれていました。



令和7年度 ユネスコスクール認定記念 探究発表会

令和8年3月16日(月)にユネスコスクール認定記念探究発表会を実施しました。1年生3グループ(国際・G特進・進学)、2年生4グループ(国際・G特進・進学・こども)、「福岡から世界へ」プロジェクトの発表、最後に、鈴木綾先生(国際連合大学上級副院長・国際連合事務次官補)が「食から考える国際協力」と題して研究内容をわかりやすく説明してくださいました。生徒たちはメモをとりながら熱心に聞き入っていました。



コンプライアンス講演会



2月14日(土)に福岡海星女子学院高等学校 生徒研修会が行われました。東京健康リハビリテーション総合研究所所長で東京大学名誉教授の武藤芳照先生が「からだの理 健やかで実りある人生のために」と題して、からだに関する正しい知識が健康や生命を大切に、実りある人生に結びつくことをわかりやすく教えてくださいました。
「なぜ結婚指輪は左手の薬指にするの?」...武藤先生の説明を覚えていらっしゃいますか?

バトン部大会結果のお知らせ

2月7日(土)・8日(日)に熊本県のナースパワーアリーナにて「第51回全日本バトントワリング選手権九州大会」が行われました。本校バトン部より6名が出場し、3名が入賞いたしましたので、ご報告いたします。

- 1年B組 益本 夏芽 ソロトワール女子U-18部門 第7位
- 2年C組 森園 彩花 ソロストラットU-18部門 第10位
- 3年B組 益本 華稟 スリーバトン女子U-18部門 第2位
- 1年B組 益本 夏芽・3年B組 益本 華稟 ペア U-18部門 第4位

益本夏芽さんと益本華稟さんは、3月28日(土)・29日(日)に大阪府で行われる「第51回全日本バトントワリング選手権大会」に出場します。今後ともバトン部の応援をよろしくお願いいたします。



Schedule of events

4/7	火	始業式
4/8	水	第63回入学式
4/17	金	体力テスト 身体測定
4/24	金	ルーツの旅 平和の旅

TikTok

@f._kaisei

instagram

@kaisei._1208

kaisei._1208



いいね、フォロー
拡散よろしくお願いします!